

農業委員会だより

第 88 号
令和3(2021)年
11月1日発行
〈編集・発行〉
大田原市農業委員会
大田原市本町1-4-1
TEL.0287-23-8716

E-mail/nougyou@city.ohatawara.tochigi.jp



荒井会長、鈴木職代を始め、農業委員、推進委員で農地パトロール実施

パトロールは、農地利用の適正化のための情報収集を目的に、遊休農地の実態把握や違反転用の早期発見を主な確認事項として行っています。 2ページに委員の報告があります。

主な内容

- 委員活動報告 2
- 人・農地プラン 今年度の取り組み 2
- 農業委員・推進委員の素顔 3
- 農地の手続きについて 3
- (連載) 農業者紹介・レシピ 4

注意

死亡イノシシに近寄らないでください!

今年4月に市内両郷地区河原地内で豚熱(CSF)に感染した野生の死亡イノシシが初めて確認されました。以降、9月までに11例の豚熱に感染し死亡したイノシシが確認されています。

ウイルスを拡散させないため、死亡したイノシシを発見した場合は、決して近寄らず、市農林整備課(☎23-8813)までご連絡ください。



8/30～9/3

農地パトロール実施

委員活動報告

市内の耕地面積は11,000㌦。そのうち、遊休農地は18年12.5㌦、19年13.4㌦、20年14.9㌦と微増しております。そば畑に転換している遊休農地解消の取り組みも行っていますが、それ以上に遊休農地化している農地が多い状況です。今後、人・農地プランに基づく集積・集約計画を進め、農地を有効活用するとともに地域で農地の遊休化防止に取り組みましょう。

農業委員 唐橋 洋子 (佐久山地区担当)



▲資料と遊休農地を確認する唐橋委員(手前) 8月末の暑い中、会長を始め、農業委員・推進委員、事務局の皆さんと遊休農地を見て回りました。ここ数年、佐久山地区を担当していますが、年々遊休農地は拡大しています。特に、農地の形状が悪かったり、小さな農地は耕作しづらいためか荒れやすい傾向です。

また、草木が生い茂った農道も多々あり、農業用機械や車の出入りが危険な状況でした。人・農地プランの話し合いの中で、農地の所有者・耕作者を再確認し、基盤整備等の検討も行い、継続した管理ができるよう取り組んでいきたいと思ひます。

農業委員 津久井 勝之 (川西地区担当)



9月2日、私は川西地区の農地パトロールに参加しました。耕作できなくなった農地で、雑草が生い茂り、簡単には農地として再生できない場所がいくつかありました。中でも、150㌦ほどの農地が、耕作者がいないために、荒れている状況に驚きました。

地元の農業委員によると、水利の便が悪いため水稻を作るには大変とのこと、借り手がないとのことでした。活用方法を検討し、手を加えれば素晴らしい農地になるはず。農地利用の困りごとは、私たち農地委員、推進委員に相談していただければ、一緒に解決方法を考えていきます。

8/11

人・農地プラン実質化
における取り組み

今年度、県のモデル地区に設定した北滝・片田地区。この日は、地区の農業委員・推進委員の計3名が、地図上に農地の耕作者を1筆ごとに書き出す作業を行いました。

今後の取り組みでは、現状を書き込んだ地図をもとに、農家への説明と営農継続意向を把握して、中心経営体への農地集約を進めていきます。(文:事務局)



7/30

県との意見交換会開催

大田原市役所で開催された栃木県農業会議主催の「大田原市における農地利用推進活動意見交換会」に計10名の農業委員・推進委員が出席。



委員からは、市内は平坦な農地ばかりでなく、山間地も多い。山間部の農地は、耕作条件が悪く、水利の問題や作物の生育も悪く、経済的にも厳しい面が多い中、イノシシの被害も相まって、放棄地も増えている状況にある。米価は安く、後継者・若い農業者が非常に少ない現状で、集積率をこれ以上上げることは厳しい。5年・10年後の本市の農地が非常に心配だという意見を県に伝えた。

先祖代々大切に守られてきた農地を今後どのように後世に受け継いでいくのか。農地をよく知る現場の皆さんやJA担当者とともに話し合い、協力し、行動していかなければならない。

(文:鈴木賢一)

人・農地プラン
今年度の取り組み
について

現状課題や将来方針について、地域の農業者が中心となり、話し合って定める「人・農地プランの実質化」。今年度は、親園、野崎地区など17地区で話し合いを実施してプランの実質化を進めます。

また、昨年実質化した24地区の中から、黒羽地区の北滝・片田地区を県事業のモデル地区に設定。農地の集積集約に向けた取り組みを先行して進めます。

農地利用の最適化推進に取り組む 農業委員・農地利用最適化推進委員の素顔

第2弾

農業委員 阿見 芳 (北滝)

人・農地プランの実質化に向け、推進委員と協力し、地域内の農地の利用状況を確認し、今後は地区内の農地の集積・集約化を進める話し合いを行っていきます。地域の皆様のご参加、ご協力をお願い致します。



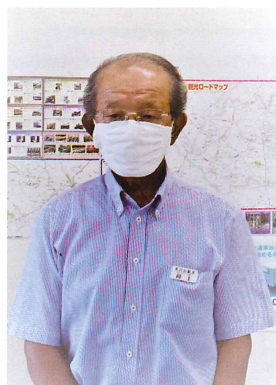
農業委員 高瀬 隆至 (佐久山)

農業委員として2年目となりました。

人・農地プランの実質化に取り組み、地域の課題や問題点についてはJAや農業委員会と連携をとりながら活動していきたいと思えます。ご協力をお願い致します。



稲作とラジコンヘリでの防除をしています



市営バス・スクールバスの運転手もしています

推進委員 川上 充 (北滝)

2期5年目になります。今年度、北滝・片田地区は人・農地プランのモデル地区となりました。地域の方々と目線を合わせて、プラン実質化を進めていくことが将来的に実を結ぶと思います。地域の農地を守るため、農家のために努力したいと思います。大事なのはやる気！



トマトと水稻の両立です

推進委員 吉成 一夫 (蛭畑)

推進委員として2年目になりました。今、地域の農家は高齢化に伴い維持するのが困難な状況にあります。農地を守り、魅力ある農業を見出すことができるよう努力して参ります。ご協力よろしくお願い申し上げます。

農地については 下記の場合、お手続きが必要です

- 農地を売るとき・買うとき
- 相続等により農地の権利を取得
- 農地を農地以外(住宅・駐車場)に利用したい
- 農地を改良したい(盛土・切土など)
- 農地を貸したい・借りたい・合意解約したい

農地に関する手続きの相談は、農業委員会事務局までご連絡ください。 ☎23-8716

求む！ 農地情報

農業委員会では、新規に就農を希望する方が耕作できる空き農地の情報を、収集しています

今年度、農業委員会事務局には市内で就農を希望する方からの問い合わせが増えています。来年から就農したいという方、4～5年先を考え相談に来られる方など様々です。空き農地情報がありましたら、農業委員、推進委員、または事務局まで、ご提供いただきますようお願いいたします。

連載

よろしくお願ひします 第5回 柴田 諭さん(若松町)

今回は大田原地区若松町にお住まいの「柴田 諭(しばたさとし)」さん(41歳)をご紹介します。

「いずれは農業をやろうと考えていた」という柴田さん。実家は米農家で、勤め先での異動のタイミングで、就農を決意したそうです。

とちぎ農業未来塾において1年間、農業経営や栽培技術を学び、3年前に就農。仲の良い友人がナス農家だったことと補助金の要件から、ナスとネギの生産を開始。現在、JAの部会に入り、ナス10畝、ネギ22畝を生産しています。



▼柴田さんが育てる式部ナス



柴田さんは、現代的な防除と土壌管理方法を取り入れています。ナス畑には、マリーゴールドやオクラを植え、害虫アザミウマ類を捕食するヒメハナカメムシ類の定着を促すIPM(総合的病害・雑草管理)を実践し、効果を上げています。また、ナス収穫後に麦を播き、そのまま耕す「緑肥」を行い、地力(ちりょく)を向上させています。

3児の父で子育て真っ最中の柴田さんは、近所の子どもたちに収穫体験させるなどして、農業に関心を持たせています。

今後は、栽培技術をさらに高め、効率を上げて、ネギの生産規模拡大をしていきたいと語る柴田さんの今後が楽しみです。(聞き手：越沼 良)

これから就農する方へのメッセージ

農業は厳しい面も少なからずありますが、自身の取り組みや工夫が結果に直結する、やりがいのある仕事だと思います。創意工夫で大田原の農業を盛り上げましょう。

農業者年金で豊かな未来を

昨年、私も加入しました！



新江 真さん(41)(蜂巣)
老後の生活を考えると、国民年金だけでは不安だと思い、加入しました。
加入や脱会が自由にできることも魅力だと思います。

鈴木農業委員からの熱心な勧誘がきっかけになりました。

加入のご相談は農業委員会事務局またはJA窓口まで

収入保険に加入して、様々なリスクに備えましょう！

収入保険は、収量減少や価格低下をはじめ、新型コロナウイルスによる影響など様々なリスクによる収入減少について補償を受けることができる制度です。1年以上の青色申告実績がある農業者(個人・法人)が加入できます。

令和4年補償新規加入は、個人の方は今年11月末、法人の方は決算月が加入申込の締め切りとなります。

詳しくは、下記までお問合せください。

栃木県農業共済組合(NOSAIとちぎ)那須中央支所
☎23-1633

地産地消レシピ 紹介

『肉きんぴら』

材料(4人分)

- ・豚肉生姜焼き用…200g
- ・じゃがいも…2個
- ・にんじん…1/2本
- ・ごぼう…1/2本
- ・こんにゃく…100g
- ・インゲン…50g
- ・唐辛子…1本程度
- ・顆粒だし…大さじ1
- ・サラダ油…大さじ2
- A(砂糖、しょうゆ、酒) …各大さじ3

これから旬を迎える地元産の根菜と唐辛子を使った、栄養満点の一品です。根菜と唐辛子は身体を温め、豚肉には疲労回復効果があります。



多めに作って作り置きもできます！



作り方

1. 豚肉は5ミリ幅の細切りする。
2. じゃがいも、にんじん、ごぼう、こんにゃくを5センチの長さの太い棒状に切り、インゲンは長さを半分に切る。唐辛子は種を取り、輪切りにする。
3. フライパンにサラダ油を入れて熱し、じゃがいも、にんじん、ごぼうを炒める。しんなりしてきたら、豚肉、こんにゃく、顆粒だしを加えて油が回るまでしっかり炒める。
4. 3にインゲン、唐辛子、Aを加え、汁気がなくなるまで炒りつけたら完成♪

(文：屋代幸子)

編集後記

今年も農地パトロールを実施しました。昨年度、耕作されていなかった農地の大半は、変わらず荒れた状態でしたが、一部ではそばの白い花が畑一面に咲き誇っていました(写真)。農業者の高齢化、担い手不足、離農などにより、空き家も増えた様に感じました。遊休農地の解消・地域の活性化に向けて、推進委員、地域の皆様とともに地域の話し合いに取り組んでいきたいと思っています。

副編集委員長 阿見 芳

【農業委員会だより編集委員会】(農政班) 助川悦夫・阿見芳・笹沼保治・屋代幸子・秋本則夫・相馬和恵・高瀬隆至・越沼良

